

特定医療法人 耕和会 理事長
社会福祉法人 耕和会 理事長

迫田 耕一郎



今までに無かったものを探し続ける

バブルの崩壊は建築土木業界をどん底に突き落とした。金融業界も医療業界も大きな打撃を受けた。シャボン玉は飛ばずに消えた。

指導者は国策として試行錯誤を繰り返してきた。

苦し紛れに選択した戦争も幾度となくあった。国民を幸せにしよう、国益を諮ろうとして選択したのであろう。加藤陽子氏は日本が戦争に至るまでの交渉の経緯を著した(朝日出版社)。世界から「どちらを選ぶか」と三度も問われたが交渉決裂し戦争を選択したという。

結果は敗戦である。

8月15日は終戦記念日ではなく敗戦記念日である。

戦争のために子供を産めよ、増やせよと誘導し、子供が増え過ぎ生活に困り母性保護法を制定し産児制限を諮った歴史もある。墮胎である。現在、母体への害より経済的な理由によるそれが殆どであるという。年間で500人/日×365日=18万2500人、50年にすれば912万5000人である。これがこの世に生を受けていたら少子化は招かなかったのかも知れない。非難しているのではない。その時代や過去を否定することは卑怯である。それがなぜ引き起こされたか。それを総括することが求められている。子育て支援や男女共同参画事業や一億総活躍の夢をその場しのぎにはしないとと思うからである。

耕和会は創業から30年を経過した。創成期の選択も試行錯誤の連続であった。その積み重ねが結果を招いた。決断までの経緯と推移そして結果に基づく反省は30周年記念誌に編纂しようと思慮している。平成13年頃が頂点である。守成の参考資料となれば幸いである。守成は過去に執着せず今までに無かったものを探し続けて欲しい。試行錯誤を恐れてはならない。

流転と賽の目くずれ

9月9日は「重陽の節句」である。中国では半(奇数)を陽として丁(偶数)の陰より格上としたそうである。最も大きい奇数である9が重なる日を重陽と呼び、墓前に花を供え先祖を敬い尊い菊を愛でる日である。

どんぶりの中にサイコロ(6面直方体)を投げ入れ2つのサイコロの目の合計が丁か半かを賭けるチンチロリンというゲームがある。

流れを読んで決断し、運を天に任せる訓練が賭け事である。サイコロA1つ(一人)を振れば丁半3:3で同じ確率であるが、2つのサイコロAとサイコロBを同時に振ればどんな目が出るだろう。AとBはどちらも同じ6つの目を持ち識別はできない。

表1

B \ A	1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6	7
2	3	4	5	6	7	8
3	4	5	6	7	8	9
4	5	6	7	8	9	10
5	6	7	8	9	10	11
6	7	8	9	10	11	12

図1

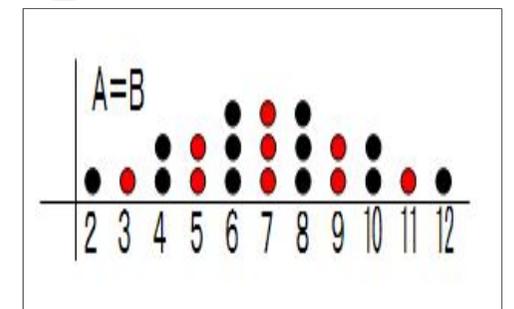


表1. は2個のサイコロ(A, B)が作る目の組み合わせを表したものである。ここからA, Bの前後が重複する15組(網掛け部分)を除くと、2つのサイコロは21通りの組み合わせを作る。それが賽の目崩れである。

図1. は2~12の目が出る回数を表したものである。2と3と11と12は1回ずつ、4と5と9と10は2回ずつ、6と7と8は3回ずつ出る。丁(偶数)は12回、半(奇数)は9回、2つのサイコロの最大奇数(半)は11である。

奇数+奇数=偶数、偶数+偶数=偶数、奇数+偶数=奇数で丁(偶数)の確率が高い。稀な1回は大穴になる。高い確率は配当が少ない。何れにしても半分は負ける。性格や能力も異なる人間集団は賽の目くずれ(21)どころではない。

人生は流転であらう。その歌詞は

男命を三筋の糸に かけて三七賽の目崩れ
浮世カルタの 浮世カルタの 浮き沈み



どうせ一度はあの世とやらへ 行かにゃならないこの身じゃないか
泣くな夜明の 泣くな夜明の 渡り鳥



意地は男よ情けはおなご ままになるなら男を捨てて
俺も生きたや 俺も生きたや 恋の為

防犯訓練を実施しました

相模原市で発生した施設内殺傷事件を受け、社会福祉法人特別養護老人ホーム「城ヶ崎小戸の家」で「不審者侵入→職員による入所者等の安全確保→警察通報等」の一連の防犯訓練を実施しました。

「もしかしたら…」との思いで、利用者、患者、入居者の皆様を守れるよう、必要な備えをし、今後も訓練を繰り返し実施して行きます。

